

1 開催日時 平成 31 年 2 月 6 日（水）午後 3 時 00 分～午後 4 時 15 分

2 開催場所 習志野市庁舎 1 階会議室

3 出席者

【会 長】 矢坂 英子 （習志野市体育協会：副会長）

【副会長】 及川 紀美代（習志野市バレーボール協会：理事長）

【委 員】 大沢 亜紀 （奏の杜整形外科：院長）

阿川 幸平 （習志野市スポーツ推進委員連絡協議会：副会長）

菊地 俊紀 （日本大学：教授）

谷藤 千香 （千葉大学：准教授）

遠山 慎治 （習志野市政策経営部：部長）

※欠席者 河村 剛光 （順天堂大学：助教）

滝田 勝久 （習志野市小中学校体育連盟：副会長）

【事務局】生涯学習部 部 長 齊藤 勝雄

次 長 岡村 みゆき

生涯スポーツ課 課 長 柴野 文明

係 長 田村 栄介

主 査 湯浅 誠

副主査 藤崎 智成

主任主事 高野 亮

4 議題

報告（1）平成 31 年度生涯スポーツ課の事業概要について

（2）平成 30 年度スポーツ・運動に関する市民アンケートについて

協議 次期習志野市スポーツ推進計画の策定について

5 会議資料（別添）

報告（1）：資料 1 平成 31 年度生涯スポーツ課の事業概要について

報告（2）：資料 2 平成 30 年度スポーツ・運動に関する市民アンケート報告書(案)

協議：資料 3 習志野市スポーツ推進計画(2020 年度～2025 年度)（素案）

6 議事内容

※議事に先立ち、「会議・会議録(発言者の職氏名含む)は公開」、「会議録は要点筆記」、「傍聴人はなし」、「会議録署名委員は阿川委員・菊地委員」、であることを確認。

報告（1）平成 31 年度生涯スポーツ課の事業概要について

【谷藤委員】「支えるスポーツ」の推進について、「2 スポーツ施設の管理運営」、「3 スポーツ施設の整備・充実」は、「支える」に入るものか。

【柴野課長】スポーツをする環境を整える意味で市側の視点では「支える」、一方で利用者側の視点では「する」に該当する両面がある。各事業を「する・みる・支える」の 3 つに分類しているが、複数に該当するものもあり、立場によって見え方が変わるものと捉えている。

- 【谷藤委員】「支える」をどう捉えるかなので、「支える人をどのように支えるか」、これが市に求められているものとして、そういった側面も充実してくるとよい。
- 【菊地委員】「するスポーツ」の「2 市民スポーツ指導員による地区活動の実施」で「市内 16 小学校区で年間 2 事業以上のスポーツ活動の実施」とあるが、どのような内容か。
- 【柴野課長】16 小学校区毎に、複数名の市民スポーツ指導員が委嘱を受けており、その方々が地域の住民等を対象に年間 2 事業以上のスポーツイベントを主催する、このような内容を市から委託している。
- 【菊地委員】全地区で 2 事業以上が行われているか、その達成率はどうか。
- 【柴野課長】全地区が 2 事業以上実施しており、3 回以上やっている地区もある。
- 【遠山委員】2 点の質問と 1 点の確認。質問の 1 点目が「みるスポーツ」の「サッカー日本代表へ練習会場の提供」について、幕張地区に設置される「JFA 夢フィールド」の完成後、第一カッターフィールドの使用がどのようになるかの展望や見解、2 点目が「支えるスポーツ」の「1 市民スポーツ指導員養成講座の実施」のカリキュラムや回数など、を伺う。確認は、「支えるスポーツ」の「3 スポーツ施設の整備・充実」は、市の予算で実施するが、次年度予算は市議会の平成 31 年第 1 回定例会で承認が必要のため決定ではないことから、内容について委員には取扱いの配慮をお願いする。
- 【柴野課長】1 点目のサッカー日本代表の練習に関して、「JFA 夢フィールド」は 2020 年春にオープン予定であるが、日本サッカー協会からは完成後も引き続き第一カッターフィールドを使用したいとの要望を受けている。今までと使い方は変わると思われるが、使用が一切なくなるものではないと考える。
- 【藤崎副主査】2 点目の養成講座のカリキュラム等は、必修項目として 4 日間設けており、市役所での座学や体育館でのニュースポーツの体験、スポーツ推進委員連絡協議会が実施する奨励大会のニュースポーツフェスティバルでニュースポーツの体験とスポーツ推進委員と共に運営側の手伝い、などである。他に、講座終了後、受講生は居住する小学校区に所属するので、その地区の活動に参加することも必修としている。昭和の時代の養成講座とは、日数やカリキュラムを比較すると内容は薄くなっているが、指導員として活動を開始する際に、先輩指導員や活動に早く慣れるよう様々な内容を組み込んでいる。
- 【柴野課長】補足だが、平成 28 年度の養成講座では本日欠席の河村委員にも、講師として指導など御協力いただいた。
最後に、施設整備と予算の関係で、遠山委員の意見のとおり、施設整備以外の事業も含めて、平成 31 年度予算案が 2 月 19 日から開会する市議会で審議された結果、承認を受けてこれらの事業に取り組めるので、改めて取扱いの配慮をお願いする。
- 【阿川委員】昨年に実施の世界女子ソフトボール選手権大会は、スポーツ推進委員、市民スポーツ指導員、総合型地域スポーツクラブなどが手伝っているが、これは「支えるスポーツ」の「4 各種スポーツ団体への支援」に該当するか。
- 【柴野課長】今回の報告は、平成 31 年度の事業概要になるので世界女子ソフトボール選手権大会は入っていないが、分類はボランティアの「支える」と、観戦する「みる」の両方に該当する。
- 【菊地委員】市民スポーツ指導員養成講座は、どんな立場の方が受講しているか。
- 【藤崎副主査】応募は、市の広報紙やホームページで養成講座の開催を周知しており、3 年前の講座では、現役で働いている方も現役を引退された方も両方いた。また、応募者は、現在活動している市民スポーツ指導員やスポーツ推進委員による声かけに

よるものが多いのが現状である。

【矢坂会長】新しい委員もいるので、本市独自の制度である市民スポーツ指導員の説明を事務局より行ってほしい。

【藤崎副主査】市民スポーツ指導員制度の発足は昭和54年で、当時は本市にあった順天堂大学とコラボし、大学の校舎などを活用し、主に平日の夜間など、受講生は仕事の後に講座を受けていた。スポーツ推進委員は国のスポーツ基本法で配置が義務付けられているが、本市はさらにプラスし、地域でスポーツイベントなどを実施するボランティアとして、市民スポーツ指導員制度を設けた。現在は、223名の市民スポーツ指導員が活動している。

報告 (2) 平成30年度スポーツ・運動に関する市民アンケートについて

【菊地委員】「P.41 スポーツ団体等の認知度」について、「香澄」が多く「奏の杜」が少ない理由はわかるか。

【田村係長】奏の杜は新しいまちのため、引っ越してきたばかりの方が多いことが原因と考える。

【菊地委員】「P.1 抽出方法」で、15地区で200名ずつ抽出しているが、人口比でないのか。

【田村係長】人口比ではなく、定数である。

【遠山委員】菊地委員から質問の「P.41 スポーツ団体等の認知度」の回答について、香澄と奏の杜で結果に差は出ているが、奏の杜は回答者数が多く、それを踏まえた補正等を行わないのか。見え方によっては「奏の杜」が関心のないようにも見え、誤解が生じる可能性がある。年齢では対象が特定されにくい、地域はそこに住んでいる方がいるので、統計上のあやで結果に差が出るのは工夫が必要と考える。

【柴野課長】対応として、1つはパーセンテージを実数で示すことで、奏の杜はベースとなる回答数が多いことからもう少し大きくなると思う。もう1つは、あくまでも検討材料の1つとして、誤解が生じるならば割愛する、どちらにするか等は検討したい。

【遠山委員】地域性が計画の策定に影響ないのであれば、割愛してもよいと考える。

【矢坂会長】誤解を与えないような形で市民に伝える必要がある。

【大沢委員】パーセンテージであれば、実数の方がいいのではないかと。

【柴野課長】実数でグラフ化した場合の見え方もあるので、グラフを作った上で判断したい。

【谷藤委員】サンプル数からすると、地区毎の差を示せる数ではないので、資料として割愛してもよいと考える。

【菊地委員】地域毎の結果が何かを示す場合には資料として出すべきだが、そうでなければ割愛してよいと考える。

【阿川委員】香澄は、総合型地域スポーツクラブが第七中学校区として市内で最初にできたクラブのため歴史もあり、市民スポーツ指導員はお祭りや運動会でもメインとなってサポートしているので認知度が高いと感じる。奏の杜は、第一中学校区になり、総合型地域スポーツクラブがないことなども、今回の結果につながったと感じる。

【矢坂会長】阿川委員の意見も、要因として結果につながっていると感じていたので、誤解を受けない形で市民に示す方がよいと考える。委員の意見として、問題なければ割愛してもよいのではとあったので、事務局で再度検討してほしい。

【谷藤委員】P.30からの「第三章前回アンケート結果との比較」において、内容は「年齢・性別」がメインのため、「前回アンケート」の内容は第二章に載せ、第三章は「年齢・性別」が中心となる構成の方が読みやすいと感じた。

協議 次期習志野市スポーツ推進計画の策定について

- 【遠山委員】「報告(1)」において、計画策定まで審議会の回数が3回と言っていたが、今後、関係課への照会等の内容が反映された計画案について、審議する場は何回あるかスケジュールを伺う。
- 【田村係長】関係課への照会を今年度中に行い、反映した計画案を平成31年度になると思うが、郵送でのやりとりで委員から意見をいただき、その意見を基に修正した計画案を次回7月の審議会で提示・審議いただく予定である。7月の審議会での意見を踏まえた内容を計画の最終案とし、11月の審議会で決定する予定である。
- 【遠山委員】本計画の位置づけとして、上位計画に2020年度から始まる習志野市後期基本計画がある。本計画の策定は、後期基本計画のスポーツに関する内容を踏まえることから、上位計画との整合を図ったスケジュール調整が必要と考える。
- 【菊地委員】目指す将来像のうち、現計画では「生涯」にわたり親しむ豊かなスポーツライフの実現」と表現しているが、次期計画案では「将来」にわたり親しむ豊かなスポーツライフの実現」とあり、「生涯」が「将来」に変わった理由はあるか。
- 【田村係長】誤りである。次期計画も「生涯にわたり～」となる。
- 【阿川委員】P.8の「5目標値の設定」の「支えるスポーツ」の割合で「13.3%(2018年度)」と表記しているが、P.5の「支えるスポーツの現状と課題」の「スポーツボランティアの参加率」の円グラフが「参加したことがある13%」となっているので、数字は統一した方がよい。
- 【田村係長】「13.3%」との表記に統一する。
- 【谷藤委員】P.8の「5目標値の設定」の文末の表現について、「支えるスポーツ」では「市民の20%がスポーツボランティアの活動が出来る環境づくりを目指します。」だが、「するスポーツ、みるスポーツ」では、「～運動やスポーツを行うことを目指します。～会場でスポーツ観戦することを目指します。」となっているので、「支えるスポーツ」も「ボランティア活動をすることを目指します。」の方が合っているのではないかと考えた。ただし、そうすると「支えるスポーツ」の内容である施設整備の「目指すところ」の表現が合わなくなってしまうため、どのようにそろえるのがいいか難しいものである。
- 【矢坂会長】表現はそろえた方が読みやすく、理解もしやすいものである。
- 【谷藤委員】「行政側が何をします」という面と、「市民がこうなる姿」という面が混在しているように感じる。
- 【及川副会長】表現はそろえた方がいいと感じる。
- 【遠山委員】P.11以降について、「アンケート結果から市民ニーズ、現計画で実施できた事業・できなかった事業、それを踏まえて次期計画で取り組む事業」という内容を入れたい。現計画がそれに近い形になっている。
- 【矢坂会長】事務局は、関係課とのヒアリング結果を反映した案について、次回の審議会までに委員と意見交換のやりとりをお願いする。
- 【斉藤部長】市議会の平成30年第4回定例会の一般質問で、スポーツ推進計画が取り上げられ、3つの課題があることを答えた。1つ目はスポーツを実施する割合が国や県と比べると若干上回っているが本市の目標値に達していないこと、2つ目はスポーツ団体やスポーツ推進に係る後継者が不足していること、3つ目はスポーツ施設の老朽化がかなり進行していること、とした。これについて、今回のアンケート結果、現計画の実績・課題、事業の検証等を踏まえ、本審議会の委員から意見をいただきながら、課題に取り組んでいくと答えた。

【矢坂会長】事務局は計画の策定にあたり、アンケート結果といういい材料を活用し、市民にとってよりよい計画が提示できるよう、委員と意見交換しながら進めてほしい。

7 その他

【柴野課長】次回の審議会の日程は、2019年7月10日水曜日、時間は午後3時から、場所は現在調整中のため追って連絡する。

【矢坂会長】長時間にわたり慎重審議ありがとうございました。以上で、本日の審議会は閉会とする。

上記のとおり平成30年度第3回習志野市スポーツ推進審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、出席者2人が署名する。

平成31年 月 日

署名人
